

こども未来・女性若者活躍対策特別委員会記録		
1 会議の日時	令和 7 年 7 月 9 日 開 会 午前 9 時 5 6 分 閉 会 午前 1 1 時 3 6 分	
2 会議の場所	第 1 委員会室	
3 出席者	委 員	委員長 尾藤 義昭 副委員長 松岡 正人 委 員 野村 美穂 長屋 光征 広瀬 修 中川 裕子 藤本 恵司 平野 祐也 黒田 芳弘 木村 千秋
	執 行 部	別 紙 配 席 図 の と お り
4 事務局職員	主査 横田 直道 主事 太田 輝	

5 会議に付した案件

件名	審 査 の 結 果
<p>1 こどもの未来・女性若者活躍対策に関する調査について ○いじめ防止対策について</p> <p>【参考人】 独立行政法人 国立高等専門学校機構 岐阜工業高等専門学校（学生相談室） 学校心理士ＳＶ 橋本 治 氏</p> <p>2 その他</p>	

6 議 事 録（要点筆記）

○尾藤義昭委員長

ただいまから、こども未来・女性若者活躍対策特別委員会を開会する。

本日の委員会は、いじめ防止対策についてを議題とし、協議いただくため開催したものである。

本日は、執行部のほか、議題について報告いただくため、独立行政法人国立高等専門学校機構岐阜工業高等専門学校、学校心理士スーパーバイザーの橋本治様に出席いただいている。

橋本様におかれては、大変ご多用のところ、お越しいただき、誠に感謝する。

是非、活発な意見交換ができればと思うので、よろしくお願いしたい。

なお、質疑については、報告終了後に願います。

それでは、橋本様に報告をお願いします。

（報告 参考人 独立行政法人国立高等専門学校機構岐阜工業高等専門学校
学校心理士スーパーバイザー 橋本治氏）

○尾藤義昭委員長

ただいまの報告に対し質問はあるか。

○野村美穂委員

そもそもいじめが起きる理由は何か。幼稚園や保育園の頃には、どういったいじめ防止のアプローチが有効か。

○橋本参考人

性格の違いなどから人間関係の中でいじめが起こる。アプローチについては、不適切なことがあった際に、一つひとつ丁寧に伝えていくことである。やられた相手はどう思うかを考えさせることも有効である。

○長屋光征委員

子どもたちの状況を把握するために、毎日タブレット等を使用したアンケートを実施することについてどのように考えているか。また、心理士が少ないことも大きな課題だと考えているがどうか。

○橋本参考人

アンケート方法を簡略化するなどし、実施することは有効であると考え。心理士の確保が難しい状況であるため、公に近い仕事をしている公認心理師や臨床心理士を活用できるとよい。

○長屋光征委員

アンケートシステムを作ることは可能だと考えており、予算を含め教育委員会には検討いただきたい。心理士不足についても対応が必要である。また、いじめを隠蔽してしまうおそれがあると考えがどうか。

○橋本参考人

6年前の豊田市の事案は、校長が「トラブルはあったがいじめはなかった。」と発言し、いじめではなくトラブルとして整理したいという気持ちが働いていたと考える。文部科学省もいじめの可能性があると感じたら組織で対応することを示しており、隠蔽体質は改善しなければいけない。

○広瀬修委員

昔に比べて些細なことで傷つく子どもが増えているとのことだが、何が理由だと考えているか。

○橋本参考人

正確な理由は把握しておらず、国もそれについて示していない。実際、過敏な子どもは増えている。

○広瀬修委員

原因を追究していかなければ解決できないため、国に働きかけていただきたい。また、海外では子ども

のスマホ使用に係る規制などもあるが、どう考えているか。

○橋本参考人

規制は一時的に効果はあったと感じたが、本質は本人の我慢できる力が重要であるとする。子どもが悪いというわけではなく、子どもの周りの環境が子どもの成長に大きく影響している。規制だけでは足りないとするが、可能であれば規制はした方がよい。

○広瀬修委員

小学生から中学生までの学年別不登校児童生徒数について、平成27年度に比べ令和5年度の数値は増加しているが、高校生の学年別不登校児童生徒数はほとんど増減がない。これは不登校児童が引きこもりに置き替わっているということか。

○橋本参考人

引きこもりに替わり変わった数は多くない。高校生については、出席日数が少なくてもよい通信制高校のサポート校などの受け皿が増えたため、統計上の数値は少なく見えている。

○平野祐也委員

相談窓口の整備や学びの選択肢が充実する中、令和5年度に小中高生の自殺者数が過去最高となっているが、自殺者数を減少させるための対策はあるか。

○橋本参考人

自殺者数については、男子生徒は横ばいなのに対し、女子生徒の自殺者数が増加している。思春期の前段階から自己肯定感の高め方や不安との付き合い方を教えていくことが重要である。

○野村美穂委員

女子生徒の自殺者数の増加について、性行動との関連はどのように考えているか。

○橋本参考人

思春期は自分の体に大きな変化が起きる時期であり、精神面にも大きな影響を及ぼすことから、自殺との関連はあると見られる。性教育の観点からも不安感との付き合い方を教えていくことが必要である。

○木村千秋議員

親の子どもに対する接し方が子どもの自己肯定感や不安感に影響を与えるため、親を育てるという観点も重要であるが、保育園や幼稚園等の就学前段階でできることはあるか。

○橋本参考人

保護者にも様々な人がいるため、それぞれに合った方法で園から声をかけるとともに、担任だけでなく、園長等も参画して長期的に取り組むことが重要である。

○尾藤義昭委員長

平成18年に瑞浪市で中学2年の女子生徒がいじめに関連して自殺した件では、生徒や保護者から部活動の担当教職員や教頭等に相談していたにもかかわらず、そのSOSを見落としてしまったが、対応の課題は何か。

○橋本参考人

瑞浪市の事案では、女子生徒からのSOSが学校全体に組織として共有されていなかったことが一つの課題である。

○尾藤義昭委員長

いじめ防止対策に当たっては、初期段階で止めればいじめはなくせるとの考え方の下、早期の発見・対応に努めていただきたい。

(発言する者なし)

質問も尽きたようなので、議題は終了する。

以上で、本日の議題は終了したが、この際、何か意見はあるか。

（「意見なし」）

○尾藤義昭委員長

意見がないようなので、本日の委員会を閉会する。

